



## 西垣進先生を偲ぶ

富永裕之\*

武蔵丘短期大学元教授、西垣進先生は平成12年10月31日逝去されました。享年72歳でした。教育熱心、規律正しい、学生に慕われる、素晴らしい先生を失うことは誠に痛恨の極みであります。

先生は昭和3年に横浜にお生まれになり、神奈川県立川崎中学校を卒業され、海軍兵学校に第77期生として入学、終戦までの4ヶ月余りを、江田島で過ごされました。短い間でしたが、そこで鍛えられた生活は、その後の生き方に大きく影響されたそうです。終戦後の学制改革に伴い明治薬科大学に進まれ昭和24年3月に卒業され、第1回薬剤師国家試験に合格されました。卒業と同時に東京都立衛生研究所に入所されました。生活科学部食品研究科で食品衛生や食中毒の研究、環境保健部水質研究科で環境汚染に伴う水質科学調査研究に従事され、昭和62年同研究所の理化学部長を最後に退職されました。その間、沢山のお仕事をなされましたが、中でも中核になるのは、水銀汚染と人体影響の御研究でありましょう。一般市民社会の問題として、重要なことは、マグロ等取り扱い業者の毛髪から都民の3倍も水銀が検出されている事を指摘し（毎日新聞、昭和48年6月22日）、これがきっかけになり、マグロ等大型魚中の水銀の毒性について、東京都衛生局や学会で取り上げられ、東京都立衛生研究所でも先生を中心に調査研究が行われました。その成果は魚介類中の水銀含有量実態調査及び実験動物によるマグロ肉等の毒性実験が行われ、水俣病様症状の発現がないこと、共存するセレンが水銀毒性を弱めるなどを発表されました。この成果に基づいて厚生省では大型魚の水銀の暫定的規制値を設けるに至りました。中でも世界的評価の高い業績は、Nature誌258巻5533号（1975年11月発行）に発表された論文でありました。水質の重金属環境汚染、水俣病患者を含む水俣地区住民の臍の緒35種中の（メチル）水銀とセレンの環境汚染を、大正14年から昭和50年にかけての試料を用いて時系列的に分析し解析されました。試料からはチッソ工場のアルデヒドの生産量に比例した水銀の蓄積が認められ、昭和14年の試料から水俣病患者と同じ程度の水銀の蓄積がみられ、戦前から潜在的に水銀病患者がいたことを推察、汚染は過去からすでに始まったことを、日本のみならず世界に発信された大きな意義のある業績と讃えることができます。

その後、武蔵野栄養専門学校で教鞭を取られておられましたが、平成3年4月武蔵丘短期大学の創設に伴い、教授として着任され、食品衛生学と公衆衛生学の講義や実験を担当、運営面では図書委員長として大いに活躍され、創設期の大変な時期に大きな足跡を残されました。それまでの研究業績に基づく

\*武蔵丘短期大学教授

豊富な経験を盛り込み、具体的で分かりやすい授業を丁寧にされました。特に毎回の実験にあたって、学生に教えるという責任感で、軌道に乗るまでは御自分で前もって学生実験のための予備実験をし、当日の実験の際もご自分でデモンストレーションを行うという熱心さでした。また卒業研究においても、自ら実験器具をとり、学生の理解にあわせて、学生と手をたずさえて、指導をなさいました。この姿は学生の心を打ち、慕われる存在になりました。先生曰く、私は先生に向いている、“教えていて楽しい、（学生が）反応してくれる、だから一生懸命やれるのだ。”この言葉を追想します。とにかく学生思いの先生でした。

横浜から本学へ、遠距離の通勤のせいもあり、平成7年3月に退職され、より近い武蔵野栄養専門学校で、また教鞭をとられておられました。

写真、ハーモニカ、野球と多くの趣味を持っておられましたが、木製帆船作りはとくに玄人はだしでした。ご尊父が船乗りであられた影響でありましょう。海に憧れ海のロマンを愛しておられました。一昨年、先生御夫妻と幕末のオランダ製軍艦、3本マストの太平洋横断をはたした、あの成臨丸に同乗し、十五夜に輝る東京湾中央のアクアライン“海ほたる”を背にし、観月した夕べが最後となりました。“忘れられた二十世紀の文明のベネフィット”という表題の書物を出版される夢をお持ちでした。二十世紀に入り自然科学の著しい進歩にともない人類は大変な恩恵を受け、豊かで楽しい生活を営めるようになったが、その文明が地球環境を破壊し、地球の生態系ばかりでなく、人間にも及んできた、文明のリスクとベネフィットの調和を考え合わせ、物事を真剣に考える人を作ることの重要性を論述されたかったのでしょうか。かなえられなかった夢も先生故、つぎの世で成し遂げられる事でしょう。

このように、多くの夢をえがかれておられましたが、病気に薬効も甲斐無く、帰らぬ人となってしまいました。

先生の遺徳を讃え、在りし日を偲びました。御冥福をお祈りいたします。

合 掌